

5月学院福音化、第4課

「レムナントが成し遂げたヨルダン事件」(ヨシ3:1-13)

“ヨシュアは祭司たちに「契約の箱を担ぎ、民の先頭に立って渡りなさい」と命じた。そこで彼らは契約の箱を担ぎ、民の先頭に立って進んだ。

主はヨシュアに告げられた。「今日から全イスラエルの目の前で、わたしはあなたを大いなる者とする。わたしがモーセとともにいたように、あなたとともにいることを彼らが知るためである。」(ヨシ3:6~7)

パウロはイスラエルの民が紅海を渡った事件を「バプテスマ(洗礼)」だと話します。

“兄弟たち。あなたがたには知らずにいてほしくありません。私たちの先祖はみな雲の下にいて、みな海を通過して行きました。そしてみな、雲の中と海の中で、モーセにつくバプテスマを受け、”(Iコリ 10:1~2)

バプテスマとは、古い人が死んで新しいのちで生き返ることを意味します。イエスとともに死んで、イエスの復活とともに再び生き返ることです。

“それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたではありませんか。

私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいのちに歩むためです。”(ローマ 6:3~4)

こうかい けいけん 紅海を経験できなかった荒野^{あら}世^せ代^{だい}に、やくそく ち はい 約束の地に入るにあたって、どのようにやくそく う 約束を受けた^{もの}者^{もの}になったのか、どのように^{すく}救^{すく}われるのかを説明^{せつめい}するためにヨルダン^{わた}を渡^{わた}らせたのです。けいやく はこ かつ さいし 契約^{けいやく}の箱^{はこ}を担^{かつ}いだ祭司^{さいし}たちが先頭^{せんとう}を行^いきました。けいやく はこ さいし 契約^{けいやく}の箱^{はこ}も祭司^{さいし}も、すべてイエス・キリスト^{しょうちょう}を象^{しょう} 徴^{てい}します。後^ご日^{じつ}、イエス様^{さま}が公生^{こうしょう}涯^{がい}を始^はめる前^{まえ}に、このヨルダン^{がわ}川^{がわ}でヨハネによってバプテスマ^うを受^うけます。ヨハネのバプテスマは、^{つみ ゆる すく}罪^{つみ}を赦^{ゆる}す救^{すく}いのバプテスマではなく、^{つみびと こくはく く あらた}罪人^{つみびと}であることを告白^{こくはく}する悔^くい改^{あらた}めのバプテスマです。イエス様^{さま}がバプテスマ^うを受^うけられたのは、^{つみ せ お し}罪^{つみ}を背^せ負^おって死^しぬべきさ^{もの}さげ物^{つみびと}に罪人^{つみ}の罪^{てんか}が^{じぶん}転嫁^{つみ}(自^{つみ}分の罪^{せきにん}・責任^{せきにん})などを他^{ほか}になすりつけること)されるように、^{つみびと れんごう}罪人^{つみびと}と連^{れん}合^{ごう}されるためでした。

せいしょ ひと 聖書^{せいしょ}はただ^{ひと}一つのことを話^{はな}します。にんげん どりよく こうい いっしょうけんめい 人間^{にんげん}のあらゆる努力^{どりよく}や行^{こう}為^い、一生^{いっしょう}懸^{けん}命^{めい}さではなく、イエス・キリスト^{じゅうじか とお}の十字^{じゅうじか}架^とを^{すく}通^{すく}してのみ救^{すく}われることを。ヨルダン^{じけん}の事件^{じけん}もまた、イエス・キリスト^{じゅうじか めぐ}の十字^{じゅうじか}架^{めぐ}の恵^{めぐ}みによって得^えられる救^{すく}いを説明^{せつめい}することなのです。